

令和元年度小国町商工会経営発達支援計画事業「評価検討委員会」議事録

- 1 開催日時 令和2年2月27日(木) 午後3時～午後4時
- 2 開催場所 小国町大字小国町163 小国町商工会研修室
- 3 出席者数 8名(委員3名、商工会5名)
- 4 出席者名 外部有識者
・小国町産業振興課長 井上伊勢男氏
・山形銀行小国支店長 長沢伸一氏
・山形中央信用組合小国支店長 竹田 淳氏
小国町商工会
・会長 伊藤通芳
・副会長 鈴木正昭
・副会長 木下三千男
・事務局長 渡部好一
・商工振興課長 佐藤勝則
- 5 議事進行 渡部事務局長
- 6 議事の経過と結果

定刻に至り、渡部事務局長が令和元年度経営発達支援計画事業評価検討委員会の開会を告げた後、井上委員長が挨拶を述べた。

次に、渡部事務局長は、座長に井上委員長を指名し、協議に入った。

■協議事項1 令和元年度経営発達支援計画事業の経過報告について
井上委員長は、協議事項1について事務局の説明を求め、佐藤課長が事業評価書に基づいて説明した。

■協議事項2 各事業の評価について
井上委員長は、今回取り組んだ事業の評価について、事業項目ごとに出席者へ質疑を求めた。委員からの評価意見は次の通りである。

<事業項目1 地域の経済動向調査>

井上委員長は、記載実績(逸品事業者調査50件)のほかに暖冬影響調査(198件)を行なったことも評価できると指摘し、実績に加えることで了承を得た。

事務局は、経済センサスについて、情報収集と提供が思うようにできていない現状を説明し、そのかわり、今年度、町議会の委員会活動の一環で消費者動向調査を実施したことを受け、地域事業者に対して分析結果を提供できると補足し、今後も他機関との連携を踏まえながら情報提供に努めたいと回答し、理解を得た。

<事業項目2 経営状況の分析>

竹田委員は、目標以上の実績があった中で、特に、持続化補助金の成果が顕著であるとみているが、推進方法や取組状況について意見を求めた。

事務局は、全国の商工会で山形県がトップの実績であることを説明し、一翼を担った部分もあるかもしれないが、当会としては、例年5～10件程度の申請を受け付け、効果をもたらすフォローに支援していると答弁し、評価を得た。

長沢委員は、創業支援の内訳について説明を求め、業種別で支援概要を答弁した。

加えて、井上委員長は、成果件数の内訳について説明を求め、創業4件、持続化補助金5件、金融9件の支援内容を答弁し、理解を得た。

<事業項目3 事業計画策定支援>

目標12件に対し、11件の実績となっている内容(分析成果を加味して)を理解いただき、特に意見等はなかった。

<事業項目4 事業計画策定後の支援>

井上委員長は、毎年4回のフォローアップ巡回訪問等に対し、平均4回以上の実績となっている内容に触れ、平均ではなく具体的な件数が望ましいとの意見があり、事務局は、個別カルテから抽出できうるので、実数値の計上に努めたいと答弁し、理解を得た。

<事業項目5 需要動向調査>

長沢委員は、逸品事業に対する効果検証について評価できる取り組みであるが、増加率の数値についてはどう評価分析しているのか意見を求めた。

事務局は、これまで販売促進活動があまりできていない事業者が多く、この事業に参画して前向きになったことや自らの強みをアピールした結果、新規顧客・売上増加等の伸びにつながったこと自体が大きな前進と捉えており、地道な継続支援を行っていききたいと答弁し、理解を得た。

また、長沢委員は、道の駅消費者ニーズ調査におけるアンケート結果について概要を求めた。

事務局は、毎年、西置賜広域連携事業で当該エリアの道の駅を対象にスタンプラリーを実施し、道の駅利用者アンケートを行っていることを説明した。

内容は、年代構成、利用者地域、利用した感想と要望点などを取りまとめている資料を提示し、道の駅に携わる10社にフィードバックしていること答弁し、理解を得た。

<事業項目6 新たな需要開拓>

井上委員長は、商談会成約の取引先を求めたため、事務局は、精肉店と菓子店の実名で成果を補足したが、取引先まで把握していなかったため、今後、成果の深掘りに努めたいと答弁し、理解を得た。

<事業項目7 地域活性化の取り組み>

井上委員長は、観光交流事業の成果内容について詳細を求めたため、事務局は、地域総合商社の職員と共に地域事業者の商品開発及び販路拡大に係る支援のほか、情報の共有化を図っていることを説明し、今後、地域総合商社の法人立ち上げと具体的戦略に期待していると答弁し、理解を得た。

<事業項目8 支援力向上の取り組み>

事務局は、支援機関の連携と情報交換の成果として、特に、金融懇談会の開催実績について説明し、経営指導員等の資質向上の成果としては、経営支援事例発表大会で当西置賜広域連携チームが2年連続全国大会に出場した実績を説明し、評価をいただいた。

また、事業評価と見直しの仕組みにおいては、各年度の目標に沿って計画どおりに遂行することと合わせて、来年度も引き続き事業評価検討委員会を開催することを説明し、理解を得た。

井上委員長は、全体的に意見要望等がないか求めたところ、竹田委員から実績に対して実名を添えて報告をいただくと、より理解が深まり、連携の強化が図られるとの意見があり、これに皆賛同した。

渡部事務局長は、すべての議事が終了したことを告げ、午後4時に閉会した。